

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。〔10番 東野恭行君登壇〕

○10番（東野恭行君）

おはようございます。みらい創造クラブの東野恭行でございます。

発言通告書にのっとり、1回目の質問をさせていただきます。

1、糸魚川市内それぞれの地区が抱える諸問題について。

糸魚川市も例外なく、高齢化と少子化が進んでおります。高齢化が進むことで大きな問題となるのが経済成長と社会保障制度です。経済成長は労働力人口により左右されますが、高齢化及び少子化の進行により労働力人口も加速度的に減少しています。そんな中、働けなくなる年齢になろうとも長年住んできた地域において、コミュニティを維持しながら生活環境を守っていかなければならない実態があります。

誰一人取り残さない社会を形成していくための「地域共生社会の実現」には、まだまだ市役所の手助けが必要であると考えています。

(1) 市の情報提供として、紙媒体で「おしらせばん」と「広報いといがわ」がありますが、地域の高齢化を見据えた提供の方法について、お考えを伺います。

(2) 山間地域に限らず各地域に、市より「除雪機」が行き渡りつつありますが、除雪機オペレーターの確保の現状と消雪パイプの設置について、今後の課題を伺います。

(3) 高齢化が進む地区周辺の「私道」の老朽化。周辺コミュニティによる維持管理体制の実態と、それら地域において、これからも安心安全に暮らしていくための環境整備について、糸魚川市のお考えを伺います。

(4) 高騰する物価と、電力需給の逼迫による「電気料金の値上げ」が予測されますが、糸魚川市として市民に対する省エネの投げかけや対策をお考えか伺います。

2、糸魚川市における産業の可能性と脱コロナに向けた取組について。

2022年5月29日、このたびの新潟県知事選挙において、花角英世新潟県知事が再選されました。「住んでよし、訪れてよし！の新潟県」を目指し、再び県政運営にご尽力いただきたいと存じます。

「県政運営4年間の成果をさらに大きく、はなずみ英世7つの約束」の中に「挑戦を後押しして活力ある産業を育てます」とあり、「起業・創業、園芸、まちおこしや観光など、新潟で挑戦する方をさらに後押しします。付加価値の高い産業を育てるとともに、陸・海・空の交通ネットワークを強化して拠点として飛躍を目指します」とうたわれております。

新潟県の方針（約束）を踏まえ、今後の糸魚川市における起業、創業などの可能性について伺います。

(1) 2022年5月17日より糸魚川創成塾2022基礎講座の申込みが始まりました。創成塾の取組が始まった2018年から多岐にわたる分野で創業が実現しておりますが、期待される成長分野を伺います。

(2) 公益財団法人にいがた産業創造機構の「スタートアップ拠点支援事業」。糸魚川市における拠点設置の可能性について伺います。

(3) コロナ禍における経済の停滞から3年目を迎え、ようやく回復の兆しが見えてきたと感じていますが、糸魚川市として今こそ磨き上げるべきブランド（売り）は何であるとお考えか伺います。

(4) 観光におけるインバウンド需要を増やしていくために、他市との連携や、受入体制開始の時期についてお考えを伺います。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

おはようございます。

東野議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、広報活動に関するアンケートでは、約7割の方が紙媒体でお読みいただいておりますことから、当分の間は継続してまいりたいと考えております。

2点目につきましては、地元と相談しながらオペレーター確保に努めております。

消雪パイプの設置につきましては、資源及び財源の確保が課題であると考えております。

3点目につきましては、市道認定ができない個人所有の施設の管理は、所有者が行っていただくとなっております。

4点目につきましては、省エネの取組について、ホームページなどで啓発して努めてまいります。

2番目の1点目につきましては、分野や業種を問わず、創業された全てに対して、皆様のご活躍をご期待申し上げます。

2点目につきましては、駅北キターレやクラブハウス美山がスタートアップ拠点として可能性があるものと考えております。

3点目につきましては、糸魚川ユネスコ世界ジオパークであると考えております。

4点目につきましては、北アルプス日本海広域観光連携会議を中心に取り組んでおります。受入れの時期につきましては、国のガイドラインに沿って、体制を整えながら情報発信を行ってまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

それでは、2回目の質問に入らせていただきます。

1番目の(1)でございますが、7割方が紙媒体を必要としているということで、当分、紙媒体で引き続きご案内を差し上げるということでしたが、現在、市のホームページでも、おしらせば、広報といがわは、公開されておりますが、効率化を踏まえ、行く行くはこの紙媒体での提供はなくしていく方向なのか、再度伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺 忍君登壇〕

○総務課長（渡辺 忍君）

おはようございます。

お答えいたします。

かなり先の将来になるかと思いますが、やはりこれだけデジタル化が進んでまいりますと、紙媒体というのは、いづれなくなっていくことになるんだろうと思っておりますが、ただ、そういう方が、全員が全員、いわゆるスマホ等で情報を得られるわけではございませんので、ある程度の将来を見据えた上で、いづれはなっていくとは思いますが、当分の間は、そのまま紙媒体も続けてまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

各区囑託員さんによる配付が主な配付方法であると思っておりますが、市にとっても大切な情報提供ツールであることから、費用をかけて配付することは、決して否定いたしませんし、大切な仕事を担っていただいていると思っております。

しかしながら、囑託員さんも高齢化が進み、地域にその担い手がいなくなることを想定した場合、市はどのような対策をお考えでしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺 忍君登壇〕

○総務課長（渡辺 忍君）

お答えいたします。

昨年のアンケートの中での、いわゆる配付をしていただいている方々からもアンケートを取らせていただきました。やはりその中の意見として一番多かったのは、やはり高齢化が進んでおいて、いわゆる配達する人があまりいなくなっておるといのも一つの課題だと思っております。

ただ、対策としては、やはり紙媒体がある以上、お配りいただかなきゃいけない部分もあるんですが、今、月に広報1回とおしらせばん2回を配付させていただいております、その負担も大きいのかなと思っております。

市としては、まず、2回配っていただくのを、まず1回にできないかということで、今年度から月初めの10日号につきましては、広報紙とおしらせばんの合体版というのを作らせていただきました。その先に見据えておるのが、25日号のおしらせばんも合体させていただいて、月1回の発行にできないかという段取りを今考えておるところでございます。徐々にそのような形で負担を減らしていく中で、その対応も補ってまいりたいと思っておりますし、それから、併せましてスマホ講座等で、いわゆるITの皆さんが使えるような教室等も行っております。なるべく紙媒体じゃなく、IT等の情報ツールを使っただいて、情報を得ていただくような方法も併せまして、進め

ておるところでございまして、なるべく紙媒体の方が、必要だという方が少なくなってくれば、例えばその先には郵送であるとか、公民館による配付であるとかという、違う方法も考えられるのではないかというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

今まで3回配付されていたものが2回にまとまり、いずれ1回ということの計画をされているようですが、市役所庁内に関しては、議員も含めて、高齢者と呼ばれる方が、ごくわずかと感じております。それだけ若い感性もありますし、発展性もあると考えますが、市役所の中において係長以下の若い世代の職員さんたちが、当事者目線でこのような議論をされたことがあるか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺 忍君登壇〕

○総務課長（渡辺 忍君）

お答えいたします。

市役所全体で、そのような議論というのはしたことはございませんが、広報の係の中では議論をさせていただいております。やはり若い世代からしますと、紙媒体よりも早めに電子化のほうがいいんじゃないかというご意見も頂く中で、昨年改めてアンケートを取らせていただいたんですが、やはりまだ踏み切るには早過ぎるんじゃないかという、今感じをしております。

また、この先も都度都度アンケート等を取りながら、市民の皆様の今の状況等を知る中で、移行のほうは十分に検討してまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

少し余談になるんですが、我が家は、両親と同居しております。両親の2人ともスマートフォンを活用してはいますが、やはり閲覧性の問題や検索の手間を考えると、壁に貼った紙媒体を見たり、決まった場所にしまってある書類を探すほうが便利がいいというふうに言っております。

糸魚川市議会においてもICT化が進み、タブレットの活用を始めて4年ほどが経過しておりますが、完全にペーパーレス化することは現段階、難しそうです。キャッシュレスについても、政府は2025年までに決裁比率を40%とするKPIを掲げています。我々世代が高齢者となる時代には、ほぼ完全にペーパーレスやキャッシュレスが進んでいると考えますが、今はその時代の狭間におり、徐々に時代に順応しながら効率化が進んでいくと考えます。

10年ほど前、青年会議所の新年会の案内を届ける方法として、手配りとEメールの配信で出席者の人数に差が出るかという統計を取ったことがありました。当時、私は過去にないぐらい大勢のOBの方に参加していただきたいという思いで案内を手配りにしました。結果は、手配りの年とE

メールの年と参加者の総数に、ほとんど差がない結果でありました。

しかし、統計には表れない成果が、そこには出ました。それは、案内を手配りで持つていくことで、双方に対話が生まれ、今までにない行動で現役とOBとの距離感が縮まり、今までお会いしたことがない先輩が来場して下さった。そんな成果が現れました。非効率でしたが、その喜びは、今でも覚えています。

嘱託員さんによっては、おしらせばんなどの配付を生きがいや楽しみにしていられる方もいます。地域に必要とされることや感謝されることが、生きがいにつながるのだと考えています。完全にペーパーレスやキャッシュレスが進むことで、効率化も図られ、経費も大幅に削減できると思いますが、人間としての感性は鈍化し、いずれ非効率なことは悪いことだという時代になると考えています。高齢化を見据えた提供の方法は、最終的にインターネットなどの通信のみに絞られていくと考えますが、嘱託員さんが、おしらせばん等を配付していただく作業は、現段階は非効率で大変な作業でありながら、統計には表れない地域コミュニティの形成に一役買っていると考えますが、お考えを伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺 忍君登壇〕

○総務課長（渡辺 忍君）

お答えいたします。

確かに地域の配付いただいている方には、大変なご負担をおかけしてるかと思っておりますが、また、議員おっしゃるように、それが地域のコミュニティの基礎になっておったり、ある意味、見守りの役割を果たしていただいたりと、いろんなメリットもあるかと思えます。決して費用だけのことで決めるのではなく、そういう部分もいろいろ勘案した中で、その辺は検討してまいりたいと考えています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

若い世代の職員さんと、私も地域で若い世代でそういったことを共有しながら、相談しながらそういった環境を維持していきたい、そのように思います。

2つ目の質問に入ります。

除雪機の件でございます。山間地に比べると、町なかの除雪は排雪の場所も限られ、雪のやり場に苦慮されていることがうかがえます。居住誘導区域として、総合計画にもうたわれている駅周辺地域、業者さんによるタイヤショベルのオペレーターも、年々手が足りなくなり、大雪になると作業の順番待ちの状況があります。小型除雪機のオペレーターについても、地区ごとに登録し、保険などに加入し、老若問わず、協力し合いながら作業されています。どこの地域にも言えることではありますが、消雪パイプの設置は、これら負担を軽減するため、地域にとっては悲願の環境整備であると考えます。どの場所を優先にと回答することはできないと思いますが、高齢化が進む地域、排雪場所が少ない地域、大型重機が入れない地域等を考慮し、現時点の問題点も踏まえ、駅周辺の

居住誘導の将来を見据えた消雪パイプの設置を検討していただきたいと考えるが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

斉藤建設課長。〔建設課長 斉藤 浩君登壇〕

○建設課長（斉藤 浩君）

まず、議員いろいろ質問があったと思うんですが、ちょっと整理して、小型除雪機のところからご説明させていただきたいんですけども、現在101地区105台の小型除雪機を貸与させていただきまして、地元の方から除雪を担っていただいております。

それから、取扱者の方ですけども、保険の関係があるものですから、去年は1,052人の方から保険の登録をさせていただいております。

オペレーターのほうなんですけれども、取扱者2人未満の地区が8地区やっぱりありまして、日中除雪とかでも対応できるものですから、今のところオペレーターが不足してるという地区の方からはお話を聞いておりませんが、今冬、地元がそういった話がありましたら、またご相談させていただきたいと思います。

それから、あと消雪パイプのお話がありました。昨年から消雪パイプについても新規に整備していくという方針に変えまして、今年度は、まず一番大事なのが、冬安定した水源があるかというのが一番大事だと思っております。市で考えている路線は、一応何ていんでしょうか家屋の連担性だとか、機械除雪が困難、あるいはオペレーターが不足しているというようなものを点数化して、一応候補として挙げております。今年、水脈の調査の委託をする予定でありまして、そこに十分な水源があるかどうかというのを確認して順位づけ、優先順位をつけていきたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

なかなかそういった優先順位をつけるのも、なかなか心苦しい部分もあったりだとか、みんな一緒にやってあげたいという気持ちがあるのかなと思いますが、そういった高齢化も含めて、調査を進めていただき、また実行に移していただければと思います。

消雪パイプの設置も困難で、さらに除雪機の作業が困難な場所、排雪が困難な場所に関して、用水路の蓋を開閉式に施工していただく、こういったお願いというのは聞いていただけるものなんじゃないでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

斉藤建設課長。〔建設課長 斉藤 浩君登壇〕

○建設課長（斉藤 浩君）

議員おっしゃるのは、流雪溝のようなものだと思うんですけども、特に私のところは消雪パイ

ブと流雪溝があるんですけれども、やはりそれも十分な冬の水の確保というのが十分必要だと思ってますし、また、詰まったりすると下流のほうにやっぱり被害が出るものですから、やっぱりその辺の地形的なものもあると思ってますし、ちょっとすぐにとというのはやっぱり地形をいろいろ考えたりだとか、水源を考えたりだとかというのが課題かなというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

日頃より建設課の職員の皆さんには、足しげく現地に赴いていただき、そういった調査していただいていることに感謝申し上げたいと思います。

また、そういった箇所も、ちょっとまた見ていただきたい箇所が、何か所かございますので、ぜひ、またご検討いただきたいと、そのように思います。

毎年、雪による悩みは各地域で発生しており、一昨年の大雪では、市役所に1,500件ほどの問合せがあったと聞いております。今年の冬も災害級の降雪があるとも限りません。年々労働力人口は、確実に減少しておりますので、それに見合った消雪パイプと、先ほど申し上げた蓋の施工等を検討していただきたいと願っております。

続きまして、3番目の質問に移らせていただきます。

私道の件でございます。糸魚川市内には、自分たちで維持管理しなければならない私道が存在すると思っておりますが、住んでいる周辺コミュニティの生活環境の変化や、それぞれのご家庭の将来設計によっては、整備にかかる投資の判断に迷いが生じると思います。中には自分たちの世代だけで、その私道を維持できればいいという判断もされる方もいるようです。

私道の管理については、市役所は直接関与できないかもしれませんが、私もそのような現場に立ち合わせていただく中で気づいたことは、市役所の職員さんが困り事の相談に応じてくださるだけで市民の方も安心されておりましたし、寄り添って対応していただいたことで、次への道が開けるかもしれないという希望を持たれていたことです。結論を導き出すには時間がかかると思いますが、今後どうしていきたい、どう考えているのか、その方に根気強く対話していただき、次への道が開けるまで対応していただきたいと考えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

斉藤建設課長。〔建設課長 斉藤 浩君登壇〕

○建設課長（斉藤 浩君）

私道の維持管理ということだというご質問だと思ってるんですけれども、市で管理する公共施設、インフラ資産は、年数の経過とともに老朽化して、海岸部では、特に塩害による被害も進んでおります。市域も広大で、数多くのインフラ資産を維持していくため、現在は長寿命化対策により、施設の補修を行っているところですが、まだ十分だとは思っておりません。

議員おっしゃる質問も、よく理解できるわけなんですけれども、今すぐ回答できませんが、糸魚川市の今後の課題であるというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺総務部長。〔総務部長 渡辺孝志君登壇〕

○総務部長（渡辺孝志君）

確かに結論は出ないというのは、議員のおっしゃるとおりだと思います、私道でありますので。しかしながら、地元の区長さんとやっぱり悩み事というのはしっかり聴く。要望等でも受ける場合もございますので、すぐには解決にはならないかと思いますが、何らかのいい方策があるのであれば、そういった情報をお伝えしていくという形で、時間はかかるかもしれませんが、対話の姿勢というのは、十分自治会の皆さんと取ってまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

補足させていただきますが、私道につきましては、過去から見ていただいてもお分かりのように、市道認定という制度がございます。それには、ある程度の幅員、また、その行き止まりでない状況であったり、回転場ができる状況なども必要な条件になってまいります。その辺の達成できるか、できないかということによっては、市道になったり、そのまま現道で維持しなくちゃいけないというような形になるわけがございますので、決して、全てが駄目という状況ではございません。地域の皆様方の考え方によっては、そういったところに市道編入になる可能性というのは残っておるとい、今の現状の中でもそういった可能性がございますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

少子化・高齢化は、糸魚川市内の各地域において共通する問題であります。さらにそこに潜む見えない問題が、徐々に顕在化していくと考えます。以前、福祉事務所より、住んでおられる形跡はあるが、連絡がつかない独居高齢者の方の対応をしていただきました。昼夜問わず現地に赴き、対応していただきました。先ほども申し上げましたが、建設課も同様に丁寧に対応していただいております。心より感謝申し上げます。

市役所の職員の皆様におかれましては、いつも申し分のない対応をしていただいております。私も傍らで、すぐに解決する社会問題のほうが少ないと感じておりました。これからは、市民の皆様のために、私たち議員も営業担当として、大いに市役所の職員各位と連携して、少しでも早く解決に向け、取り組める自治体になっていければと思っております。

住み続けられるまちの根幹は、まず、親身に相談に乗って、寄り添ってもらえる環境があるかであると考えます。今後も市民に寄り添った対応をお願いしたいと、引き続きお願いしたいと思ひます。

続きまして、4番目の質問に入らせていただきます。



電力需給の逼迫の件でございます。

6月7日、政府は電力需給の逼迫が予想される今夏、家庭や企業に対し、節電要請を出すことを決めました。萩生田光一経済産業大臣は、室内温度を28度にする。不要な照明は消していただくなど、できる限りの節電・省エネに協力いただくとともに、需給逼迫時の節電対策体制の構築にご協力をお願いしますと話しております。期間は、7月1日から9月30日までの3か月間、私たち市民にできることは、どのようなものがあるのでしょうか。資源エネルギー庁によりますと、夏に家庭で電力消費が多い家電製品の割合は、エアコンがトップで34.2%、次いで冷蔵庫が17.8%、照明が9.6%となっていて、この3つで全体の6割を占めています。このため、資源エネルギー庁は、節電の効果を十分に発揮するためには、エアコンと冷蔵庫、そして照明の使い方を工夫することが大きなポイントだとしています。

もうすぐ7月になりますが、現時点で糸魚川市で、市民の皆様具体的にどんな促しをするのか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

猪又環境生活課長。〔環境生活課長 猪又悦朗君登壇〕

○環境生活課長（猪又悦朗君）

おはようございます。

お答えいたします。

今ほどの議員のご質問に対しましては、私どもとしましては、きめ細やかな、今議員のほうからいろいろとお話ありました、そうやって細やかな節電の対応を市民にホームページ上で投げかけていきたいということでございます。冷蔵庫の温度設定から、もっともっと見直しをすれば、今の生活を基本的に、ライフスタイルを見直す中でどうやっていけばいいかというところまで考えていく必要があるのではないかとこのふうにも考えております。そういった点を丁寧に啓発、説明をしていきたいというふうにも考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

まず、基本的にホームページに掲載していただくということだったんですけども、日頃、私も安心メールに代わるLINEのほうを登録させていただいておりまして、今日の、火事でもう4年、5年がたとうとしておりますが、南風に注意してくださいという、私4年前にしたお願いが、また再度繰り返しお願いしていただいていることに感動したんですけども。そういったように日頃から頻繁にそういった連絡していただくことで、節電が継続していくんじゃないかというふうに思っておりますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

猪又環境生活課長。〔環境生活課長 猪又悦朗君登壇〕

○環境生活課長（猪又悦朗君）

議員のご提案のとおり、ホームページというのは見にいかなければならないというところございます。そういった点から、安全・安心メール等で流していくという積極的な啓発というところもしっかり取り組んでいきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

よろしく申し上げます。

先ほども申し上げましたが、私自身、安心メール、LINE等で毎日ホットな情報を市役所から提供いただいております。これらツールを最大限に生かしていただき、誰しにも分かりやすく情報を伝達し、電力需給の逼迫に備えていただきたい、このように思います。

続きまして、大きな2番目の（1）から質問に入らせていただきます。

創成塾の件でございます。創成塾の取組が始まり、間もなくコロナ禍に突入したわけですが、新たに創業された方で、コロナ禍の影響を受け、リタイヤされた実績はあるのか伺いたいと思います。経営面でも会議所と連携の上、しっかりとフォローアップが行き届いているか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

おはようございます。

お答えさせていただきます。

今ほどのご質問の創成塾につきましては、駅北大火からの復興の時期とも重なりまして、糸魚川市でかなえたい夢がある人を応援する事業としまして、平成30年度に創業した、創業に必要な知識を専門家から体系的に学ぶ基礎講座とビジネスプランコンテストを糸魚川創成塾実行委員会で開催したものであります。これまで4回行ってございまして、昨年までで75名が修了し、今年度の5期生は、31名の申込みがありました。先週、6月8日に第1回目が開講しまして、6週連続で開催する計画であります。これまでの受講者の中で、修了後に創業された方は20人ございまして、業種は飲食の方が多くなってございます。皆さんそれぞれの分野で夢をかなえられてございまして、分野を問わず、広くご活躍いただければなということで、行政のほうは寄り添って行っておるつもりであります。

今ほどご質問ありました、このコロナ禍によりまして廃業された方がおられるかというお話であります。今のところ廃業した方はおりません。また、商工会議所等、また私ら行政は、フォローアップのつもりではないですが、その方たちのお店に時々回らせていただきまして、フォローしているつもりであります。今後とも、この創成塾の塾生たちにつきましては、行政と一緒に糸魚川のまちを盛り上げていっていただきたいなというふうに思っております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

少なからず、コロナ禍において創業された方は、本当にご苦労されたと思います。辞めてしまいたいと感じたこともあると考えます。担当課におかれましては、創成塾のOBの方々との交流も意識していただき、状況などを共有していただければというふうに思っております。よろしくお願いいたします。

続きまして、2番目のスタートアップ拠点支援事業についてでございます。

令和2年度で締め切られた公益社団法人にいがた産業創造機構のスタートアップ拠点支援事業は、県内における起業の活性化を目的に、メンターまたはコンシェルジュを配置し、起業・創業の相談対応や支援機関の紹介等を行うほか、コワーキングスペースやレンタルオフィス等の起業スペースなど、多様な利用者が交流する場を創出するスタートアップ拠点を運営する民間事業者に対して、必要な経費の一部を助成する事業でありました。その後、県では民間スタートアップ拠点が立ち上がり、新潟ベンチャー協会が発足し、大学・高専でも起業家教育が積極的に行われており、スタートアップエコシステムに必要な要素が整いつつあります。

令和2年3月30日に有識者で構成されるスタートアップ育成プロジェクトチームの提言では、今後、起業家や支援者、金融機関、教育機関のみならず、地元企業を含めて連携・交流を促進し、様々な協業プロジェクトが見いだされ、より多くの人、企業が関わっていく環境づくり、継続性の担保が必要。スタートアップエコシステムとして、新潟の競争力を高め、多様な人材を引きつけていくには、地域の社会課題を抽出、見える化するとともに、J-Startup NIIGATAの取組等により、地域を挙げてスタートアップ支援をするなど、新潟らしい取組を継続的に県内外に発信していくことが重要であると提言がまとめられております。

この提言から、2年ほどが経過しましたが、現在の民間スタートアップ拠点を中心とした県の起業・創業支援の取組の実態・成果等について、お伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

当市におきましては、平成30年度に新潟県からの当市への派遣でお越しいただいた当時の企業支援室長が、創成塾のスタートに尽力してくださいましたことから、情報交換につきましては、他市に比べれば大きなものがあつたのかなというふうに思っております。

創成塾は、市だけではなく、経済団体や金融機関も連携して進めておりますが、民間スタートアップ拠点という点につきましては、当市においては、動きはまだまだ弱いのかなというふうに思っております。県内全体では、長岡市や新潟市など、活発な動きが見られるところもございますが、県の起業・創業支援の取組につきましては、一定の成果はあるものと評価はしております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

スタートアップ拠点の運営にとって、役割の大きいメンター、コンシェルジュの役割は、現段階の糸魚川市の取組では、形は違えど創成塾の講座、講師が担っていると考えます。民間企業から輩出されたメンター、コンシェルジュの存在があって初めて、県がうたうスタートアップ拠点の設置がかなうと考えますが、過去に糸魚川市において、県のスタートアップ拠点支援事業に取り組んだ、試みた事業所はあるのかどうか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えさせていただきます。

このスタートアップ拠点支援事業につきましては、平成元年と平成2年度の事業であります。平成2年のときに興味を示していた事業所がおありになると聞いております。ただ、公募のほうには至っていなかったというふうに聞かせていただきました。

また、この事業が終わりまして、令和3年度になりまして、こういった事業があったのだということで、興味を示された事業所はありましたが、県の事業も終了しておったことから、公募には至っておりません。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

県のスタートアップ育成プロジェクトチームの提言概要を見ますと、NICOなどの支援機関との連携、県外産業支援施設との連携、中核拠点からのノウハウ提供として、オンラインコミュニティスナップサロンとの連携、大学、高専との連携、先輩起業家との連携がうたわれております。令和2年で支援拠点施設の設置については、締め切られておりますが、企業に対し、県から補助金が支出されなくとも、既にある民間スタートアップ拠点とつながる価値は高い、このように感じております。

糸魚川市においては、美山多目的集会施設と民間企業の建物を活用し、コワーキングスペースと

サテライトオフィスが設置されました。交付金による大きな投資がされておりますので、この中身を充実させ、価値あるものにしていかなければならないと考えますが、市が設置した今あるサテライトオフィスを利用した上で、市内事業所と連携し、県のスタートアップ拠点として発展させる価値と可能性について、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えさせていただきます。

先ほど市長の答弁にもありましたとおり、クラブハウス美山や駅北広場キターレなどは、スタートアップ拠点としての可能性があるものと考えております。その場所に行けば、相談できる。頼りになる。誰々さんがいるという形が理想でありまして、助言者でありますメンターの人の配置が常時かなえば、美山の施設など、利用促進や活性化にもつながるのではないかなというふうに考えておりますので、引き続き取組のほうを続けさせていただきたいなと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

今後、設置されたコワーキングスペースやサテライトオフィスは、どのような生産性があるか、市民に問われてくると思っております。担当課におかれましては、様々な可能性に挑戦していただき、市民の皆様にも納得のいく施設にしていただくべく努力していただきたいと考えますが、米田市長、どのようにお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

まさしく行政もそういった点を担ってまいったわけですが、しかし、やはり実績とか、そうした最先端の情報、いろいろな点において民間より、やはり劣るわけですが、そういう点をしっかり持ち合わせた人たちが、そこで、この相談に乗ったり、また指導したりという形ができるわけですので、私といたしましては、非常に新たな期待を持てる形であるわけですので、しっかりと連携しながら支えていきたい。また、そういったところをさらに拡大していくような、また支援をしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

続きまして、3番目の質問に入りたいと思います。

糸魚川市として、今こそ磨き上げるブランド（売り）について、ジオパークという回答を頂きました。まさに私も、ジオパークであるなどと思いますが、ぜひ回答をヒスイと言ってほしかったなどというところでもあります。

私も糸魚川市にとって、観光資源となる磨き上げるブランドは、食であり、ヒスイであると考えています。新潟県議会は、ヒスイを新潟県の石にするよう求める請願を採択いたしました。早ければ、今年の夏にも決まる見通しであります。実現すれば、新潟県のシンボルとして、チューリップ、トキ、雪椿、雪割草、ニシキゴイに続く、6番目のシンボルとなります。花角知事の公約にも、ヒスイやニシキゴイなどを活用することがうたわれております。後は、糸魚川市がどのように売り込んでいくかですが、糸魚川市として、県の石として正式に承認された後に、どのように取り組んでいきたいか、お考えか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

糸魚川市のブランドをジオパークということで市長答弁のほうさせていただきました。ご存じのようにジオパークは、今ほどお話しありますようにヒスイ、またフォッサマグナなど、当市の特徴的な地域資源を産業や観光と結びつけることができるとても有効なツールだというふうに考えております。コロナ収束後のインバウンド、また、今ほどお話しありましたように県の石に認定されたことを見据えた上で、当市を国内外に広く発信していくために、このジオパークというツールを積極的に活用していきたいなというふうに思っております。

ジオパークは、やはり間口が広いプログラムでありますので、大地と人の恵みをストーリーとして多面的につなぐことができますことから、世界に認められましたヒスイ、また、当市ならではの価値を各市の事業に付加することができるものと考えておりまして、様々なイベント等にやはり県の石、また、国石という形でつけて、様々なものを行っていきたいなというふうに考えております。以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

最近では、NHKの「ブラタモリ」などに糸魚川市を取り上げていただきましたし、6月17日の夜10時45分から同局のドキュメント72時間にも糸魚川市を取り上げていただくようです。タイトルは、「新潟ヒスイ探しの海岸で」です。タイトルもさすがに秀逸です。

最近の糸魚川は、何度もテレビに取り上げていただいて、すごいなと感じておりますが、それだけ地元の人も気づかない魅力を秘めているのだと確信しています。商工観光課の課長も新たに代わり、ご期待申し上げるところでございますが、今後の観光振興にかける意気込みを大西課長からお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

新しい商工観光課長の意気込みということでのお話であります、今まで様々な商工観光課長が、糸魚川市の観光行政のほうを担っておりました。その観光行政につきまして、継続性を持って、まず私はやっていきたいなというふうに思っております。その継続性の中で、1つは、新市になって米田市長が行っておりましたジオパークという動きを途切れることなく、一層拡大していくような形で観光振興のほうに努めていきたいなというふうに思っております。

まだまだ課長になって、まだ2か月ちょっとですか、観光につきましては、勉強不足だと思っておりますので、もう少し地域に出て、様々な市民の声を聴きながら、これから取り組んでいきたいと思っておりますので、東野議員におかれましては、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

先にヒスイは国石として承認されましたが、県からも応援していただけることを考えると、県の石としての認証には、意味があり、価値が高いと思っております。後は、市民の認識が、より高まることを期待して、糸魚川市も大いに盛り上がっていただきたいと思います。そして、盛り上がってきたいと考えております。

最後の質問になります。インバウンドの件でございます。

国内でも、およそ2年ぶりにインバウンドの受入れが始まりました。今後の観光振興に期待がかかるところでありますが、大糸線の活用もインバウンド観光の肝となると感じております。全線開通65周年を追い風に、様々なイベントが計画されると思います。2年間に及ぶコロナ禍で、暗い話題ばかりでしたが、インバウンド需要にかける意気込みがあれば、お聞かせいただきたい、このように思います。お願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えさせていただきます。

全国ニュースにもありますように、6月10日からインバウンドは正式に開始されております。ご存じのように今回のガイドラインにつきましては、あらかじめ定められた行程に沿って行われ、入国から出国までの全行程に添乗員が同行し、行程を管理するパッケージツアーという規制があります。

また、参加者へのマスク着用の義務づけや行動履歴の把握など、旅行業者の負担が大きくなると言われておりました、大手旅行社じゃなければなかなか難しいのではないかなというふうに言われ

ております。

また、受入れ側につきましても感染予防対策、また感染した場合の対応など、しっかりした準備も必要だというふうに聞いております。

つきましては、そのようなことから、今回は、首都圏や北海道、また沖縄などの有名な観光地から開始され、糸魚川市に来るのは、もうしばらくかかるんじゃないかなというふうに思っております。

しかし、この2年、糸魚川市のほうもインバウンドのほうでは、なかなか苦戦しておりましたので、北アルプス日本海広域観光連携会議、新潟県、富山県、長野県の6市町村で連携しております会議ではありますが、えちごトキめき鉄道、また大糸線等を活用した台湾の旅行博に参加し、現地旅行会社との商談や観光PRのほうも、コロナ禍の前までは行っておりました。

また、白馬村との連携で、白馬村へスキーに来るインバウンド観光客を対象に、シーフードシャトルバスも行ってまいっておったところであります。そういったものを改めて、今後、やるんだということで、情報発信をしていければなというふうに思っております。その中では、やはりガイドラインのほうを遵守して、しっかりした体制を整えていきたいなというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

よろしく願いいたします。

コロナ禍において、特に飲食店や観光にまつわる事業所は、大変ご苦労されました。糸魚川市におかれましては、その苦しいコロナ禍の間、手を差し伸べてくださったことで、各事業所それぞれに窮地をしのいだことと思います。まだ先が見えず、不安要素もありますが、市内のイベントも再開の兆しが見えてきております。会派の中でも、宴キャンペーンを利用して、宴会に参加してきたとの報告も頂きました。昨日も、商店街の会議がありましたが、集まった皆さんは、前向きに議論されておりましてし、何より笑顔が見られました。マスクが完全に取れるまで、まだ時間がかかるかもしれませんが、今後は戻りつつある糸魚川市民の笑顔のために、支え合いながら市民の生活を守っていただきたい、このように願っておりますが、米田市長、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

まさしくウィズコロナという形になりつつあるわけがございますので、それをしっかり我々は持ちながら対応していきたいわけでありまして。そして、やはり落ち込んだといいましょうか、少し冷え込んでいる部分というのは本当に分かるわけがございますので、そういったところをどのようにしてか、本当に商工観光課長が申し上げたとおり、新たな展開をしていかなくはないかと思っております。それには、やはりジオパークを中心にしていきたいと思っておりますのは、今インバウン



ドで通訳士が必要な状況が生まれおります。通訳士につきましては、糸魚川のジオパークにおきましては、アンバサダーとして10人を超える人たちが来ていただいているわけですので、そういったネットワークを使いながら働きかけもしていきたいなと思っておる次第でございます。そのように新たな展開を今がやるべきだと思っております。確かに課長言われるように、最初は大都市周辺に行くんだらう、また一大観光地へ行くんだらうと思うんですが、そういうときにやはり我々は、しっかりと連携を取りながら、そういった今まで培ってきたネットワークを生かしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

以上で、私の一般質問を終わります。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、東野議員の質問が終わりました。

関連質問はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

関連質問なしと認めます。

暫時休憩いたします。再開を11時10分といたします。

〈午前11時01分 休憩〉

〈午前11時10分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、田原洋子議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。〔7番 田原洋子君登壇〕

○7番（田原洋子君）

おはようございます。私は、名前は田原洋子です。

それでは、通告書に基づき、1回目の質問をいたします。

1、糸魚川市内におけるキャンプ場の料金見直しと予約方法について。

豊かな自然に恵まれた糸魚川市には、ヒーリングガーデンたかなみキャンプ場、ヒスイ峡キャンプ場、蓮華温泉キャンプ場、美山キャンプ場、不動滝キャンプ場、海谷三峡パーク、雨飾山麓しろ池の森、荒崎キャンプ場、須沢臨海公園オートキャンプ場と、現在改修工事で休園中の森林公園高ノ峯プラトーと多くのキャンプ場があります。